

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):大学院学際情報学府博士課程3年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: フランス国立社会科学高等研究院(EHESS)

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 ④.非営利団体
⑤.民間企業(業界:) ⑥.起業 ⑦.その他()

派遣先大学の概要

フランス、パリにある社会科学を中心とした高等教育(大学院のみ)・研究機関。

留学した動機

自分の研究分野の第一人者である先生(オギュスタン・ベルク教授)の下で博士論文研究を進めるため。フランス・ヨーロッパにおける日本哲学・環境哲学研究の状況を調査するため。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[2]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年9月 ~ 2015年9月 学部/修士/博士[2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [3]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
大学院博士課程に進学後、1年半の研究を積んだ後で丁度良い時期だったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

先方の担当の先生、国際課と細目に連絡を取ること。現地に着き次第、早めに直接会うこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

早めに行くこと。必要書類を事前に十分に確認すること。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

風邪薬、胃腸薬など、一通りは揃えて持っていった方が良い。自分が過去に受けた予防接種は受けた時期も合わせてリスト化しておくこと(ビザ取得時に移民局で聞かれる)。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

フランスの場合、高等教育機関に所属すると現地の保険 *sécurité sociale* に入ることが義務化されるため、自分は日本との往復のみクレジットカード付帯の海外旅行保険を利用した。フランスから他国に学会等で出張する際は、その都度短期旅行保険に入った。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学務にて研究指導委託手続きを行った。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学半年前は TCF B2 レベルだった。その後も語学学習を進めた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

医薬品、簡単な日本食品。滞在先(寮など)を早めに調べて確保しておくこと。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

EHESSでは博士課程学生に単位を与えるシステムが元々ない。ベルク教授のセミナー1つ、フランス語の語学の授業

3つ、英語の語学の授業 1つを受講した。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

語学の授業はークラス 10 人程度、比較的インテンシヴで先生との距離も近く、語学力の向上につながった。授業時間外に先生に論文や研究発表の原稿を見てもらうこともできた。セミナーは 2 週間に一度で、毎回面白い議論が繰り広げられ、授業後の懇親会では他の研究者と交流することができた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1 学期あたり仏語 2つ、英語 1つ、セミナー 1つを受講した。授業時間は、週当たりフランス語 4 時間、英語 2 時間、セミナー 2 時間だった。授業時間以外で授業に関わる学習時間は、語学は授業時間と同時間程度、セミナーは 2 倍程度。

④学習・研究面でのアドバイス

積極的に周りの学生、先生と関わること。また学外に研究会・学会の機会も多くあるので、自分の専門と近いものを調べて足を運んでみる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

入学、入学時の書類では専門用語も多いため、辞書で調べて分からないことがあれば先方・周りに問い合わせること。語学は、留学前や留学中早めの時期に集中してレベルを高めておくのが、後々より有意義な滞在を送るためにも良いと思われる。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

パリ国際大学都市の日本館に滞在した。家賃は一月 440 ユーロ。居住者 70 人(内日本人 7 割弱)。毎週清掃が入り、2 週間に一度シーツを交換してもらえ。2 ヶ月に一度程度、日本館全体の交流の機会がある。前にパリに留学していた先輩に聞き、ウェブサイト・メールで申し込み。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

パリの冬は東京よりも冷え込む。一年を通して乾燥している。大学は寮から 30 分程度離れたところにあり、RER(列車)とメトロで通っていた。食事は自炊か学食。現地銀行の口座を作った。日本の銀行で作った国際クレジットカードでキャッシングし、現地の口座に入金していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺は比較的安全だが、一般的にパリの治安は良い方ではないため、常にスリなどに対する注意は必要。今年 1 月にあったシャルリー・エブドのテロ事件などの際は、周囲の人と密に連絡を取ることが大切だった。日本語対応可の病院はネットで探せばすぐに見つかる(在フランス日本大使館のウェブサイトも参照)。冬は日照時間が短く、鬱になる留学生が多いそうなので、気分転換の方法を見つけておくこと。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

1 月 900 ユーロ程度(家賃 440 ユーロ、食費 300 ユーロ、交通費 70 ユーロ(定期代)、その他日用雑貨費など)

・留学に要した費用総額とその内訳

15000 ユーロ程度(生活費 10800 ユーロ、研究費 2400 ユーロ、航空賃往復 1000 ユーロ、その他)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構「海外留学支援制度(短期派遣)」、月 10 万円、東京大学国際交流課からの紹介。(日本学術振興会特別研究員採用のため、受給は 3 月まで)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

美術館、オペラ鑑賞など(第一日曜日は多くの美術館が入館無料になる。ルーヴル美術館も 30 歳未満は年間パスを安く作ることができる。オペラ座なども 10 ユーロからチケットが入手可能)。パリやパリ郊外の街散策。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生対象のフランス語の授業が開講されていた。困った場合に相談できる国際交流課あり。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

他から蔵書を取り寄せる形式の図書室が校内にある。また、近くに国立図書館があり、年間登録をすれば地下の研究者用のフロアを使うことができる。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外からも日本国内の研究結果を外国語で発表する研究者へのニーズが高まっていることを知り、日本の大学でもそのようなグローバル志向のある大学に就職したいと考えるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

この一年で、フランス内外にて計5回の学会発表の機会を頂いた。フランスや他の国の研究者と交流することができ、今後予定されている2つの国際プロジェクトにも参加させてもらえることになった。論文も一本出版予定である。多くの強い刺激の中、自分の研究を進め、また国際社会を見る目を養うことができ、非常に有意義な一年間だったと思われる。

②留学後の予定

博士論文の執筆を進める。今年12月には留学中にできた研究仲間がバルセロナで開催する日本哲学の学会に参加予定である。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学準備は大変ですが、留学によって得るものは無限大です。是非、チャレンジしてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

在日フランス大使館ウェブサイト <http://www.ambafrance-jp.org/~rubrique1036->

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: EHESS(パリ)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
 5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

社会科学高等研究院(EHESS)。大学院のみの研究機関で、修士課程、博士課程の学生が学ぶ。専門は社会学、歴史学、哲学等。

留学した動機

自分の研究に近い教授がいたため。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[2]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学(研究指導委託)
- ③留学期間: 2014年9月30～2015年6月25 学部/修士/博士[2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[18]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[]年 []月入学 西暦[]年 []月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: []年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
博士課程の早い時期での留学を考えていたが、2014年度までEHESSへの全学交換留学での枠がなかったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

渡航前に担当事務所から入学許可書をPDFにてメールで送ってもらった。フランス大使館でのビザ申請や、寮の入居申請の際に必要なため。渡仏後に、保険への加入やアロカシオンの申請、等をおこなった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本に居る間に、フランス大使館のホームページ Campus france からウェブ手続きを済ませ、指定の日時に書類を提出しに行く。渡仏後、三ヶ月以内にOFIIの手続きを済ませる必要がある。国際学生都市の中に、9月—11月までビザの手続きのブースが設置されるので、そこに行くと最初のステップを済ませられる。(居住証明書、ビザとパスポートのコピー、写真、渡航前大使館からもらったOFIIの紙、が必要)。ブースでの手続きの際に、健康診断の日時を指定されるので、パスポートと、指定の料金の印紙、ブースで渡されたコンヴォカシオンを持って指定の場所で健康診断を受ける。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

一般的な薬は渡航後で買うことが出来る。A型肝炎を打ったほうがよいとも聞かされたが結局打たなかった。渡航後に打っても値段はさほどかわらない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

日本で最低限をカバーする保険に入ってから渡航したが、渡仏後にフランスの大学からの義務づけでLMDEというフランスの学生向け保険にも加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

研究指導委託での渡航であったので、研究指導委託届けを提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

日本でフランス語の授業を受けていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
使い慣れた医薬品等。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

研究指導委託先の先生の研究会や授業に参加した。その他の時間はアーカイヴにおいて資料調査を行った。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

授業は大学の語学の授業を含めて週に4コマ程度。

④学習・研究面でのアドバイス

フランス語の語学力が大変重要。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

リスニングとスピーキングに苦勞した。その分の遅れをリーディングで補うなどすると精神的にも負担が減った。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

国際学生都市。5月頃に申し込みを行った。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

銀行口座の開設などもスムーズで特に問題なかった。メトロがよく止まったのと北駅周辺は治安があまりよくなかった
ので注意が必要。トラムがとても便利。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

貴重品は胸ポケットに入れるなどしてスリに注意した。精神面ではささいなことでも相談し合える友人の存在が大きかった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃が月 430 ユーロ程度で、

その他の出費(主に食費と書籍代)が月 200 ユーロほど

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

映画が学割だと安価だったので気晴らしによく観に行った。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

日本研究のセンターがありその先生方やスタッフの方々によくお世話になった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は予想より小さく試験期間は席がなかった。大学側の国立図書館をよく利用した。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

将来的に海外で研究活動を行うことに対する精神的ハードルが下がり、フットワークも軽くなった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学先では現地の学生だけでなく、同じくアジアから来た留学生と交流する機会も多く、アジアの中での日本について以前よりも客観的な視点を得ることができたことも留学の大きなメリットだった。また、現地のニュース報道に日常的に触れたことで現地の政治状況や社会問題についてより深く知ることが出来た。また、研究会での報告等を通じて国際的なコミュニケーション能力も向上した。

②留学後の予定

博士論文の完成と就職。留学で得た海外のネットワークもいかして学会の活性化に役立ちたい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

大学院に入ってから初めての留学は、私自身そうであったように論文執筆との兼ね合いもあり踏み出すのに勇気がいるものですが、実際に行ってみると結果的にメリットが大きかったです。東京大学の全学交換留学制度は大変貴重な機会なのでぜひ活用してください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。